やまゆり

学校だより

令和5年9年月15日
42号
学校長　杉本賢二

校　　訓　「和の心」
学校教育目標　「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」－気づき・考え・実行する－
校内研究重点　「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育目標重点　「　道志村社会福祉協議会との地域連携　」

「弁護士」さんから「消費者被害」について学びました

昨日の9月14日（木）の5校時・6校時に、道志村社会福祉協議会の方々に協力を頂き、「木下弁護士さん」から「若年層の消費者被害の実態とその背景の考察」について全校生徒で学びました。昨年度は、「災害ボランティア」について学びました。今年は若年層をねらう犯罪について学び、被害者にも加害者にもならないための知識を向上させることが出来ました。

講義の内容は、若年層の消費者被害の内容や、だます側の仕組みについてです。また、犯罪の背景には非正規雇用の方々の低賃金等により、「格差社会」が大きな影響を与えていることも学びました。だます側もだまされる側も共通の事情として、「現在従事している将来性のない業務と比較して、同じ単純業務でもそれなりの「報酬」が得られること」が大きな要因として挙げられました。

近い将来、道志中の生徒もこの社会の中で生きて行かなければならないことを考えると、とても重要な学びでした。

講演の最後に、加藤景己さんと渡辺脩大さんが、「消費者の被害者にならないために誰に相談したら良いか」を尋ねました。

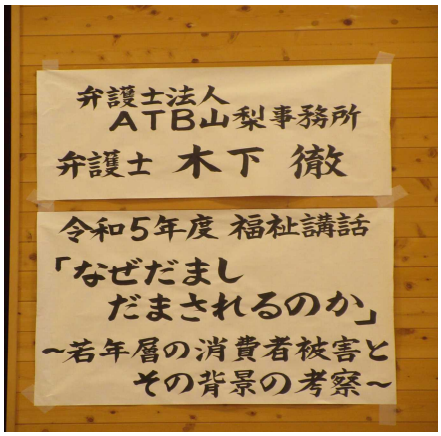
木下弁護士さんは、複数の人に相談し、その平均の意見を参考にすることや、消費者被害の相談窓口（電話番号188）で助言を求めることを推奨して下さいました。

お礼を述べながら、杉本も質問しました。一つは、この格差社会の中で生きて行く上で「学びの意義」についてお考えを伺いたいことと、二つ目は、大学や司法試験に合格するための勉強の動機付けについて伺いました。

木下弁護士さんの答えは、職業的には「各自の適性や興味、関心の高い職業を選択することが重要」であると考えていることを教えて下さいました。また、勉強の動機付けに関しては、大学も

司法試験も実際には落ちる人がいるので、「落ちたくなければ必死にやるしかない」という思いで勉強に取り組んできたと話して下さいました。

最後に、桜愛さんがお礼の言葉を述べました。「消費者トラブルに巻き込まれないための貴重な学びの機会」であったことや、「今日の学びの知識を生かし、被害者にならないようにしたい」ことを伝えながら感謝の気持ちを表現しました。



木下弁護士さん

質問する景己さん・脩大さん

感謝の言葉 桜愛さん

自分の事として真剣に聞く生徒

道志村福祉協議会 藤本さん・佐藤さん

学校教育重点目標 「居心地良くやる気のある学級」・「確かな学力の育成」

本校は、「令和のやまなし教育活動モデル事業」の協力校です

本校は、10月18日（水）に「令和のやまなし教育活動モデル事業」の協力校として令和5年・6年の2年間取り組むことになりました。令和4年度まで「先進的教育活動モデル事業」の協力校として取り組み、その成果を公開研究会を開催しながら地域の教育に貢献してきました。

今年度からは、「学習指導に関するモデル校」として研究し、山梨県下の学校にその成果を還元する役目を果たしたいと思います。

つきましては、10月18日（水）に、山梨県義務教育課の課長補佐や指導主事、富士・東部教育事務所の指導主事、教育委員会や小学校・他校の教職員・大学教授等を対象に「協働的な学

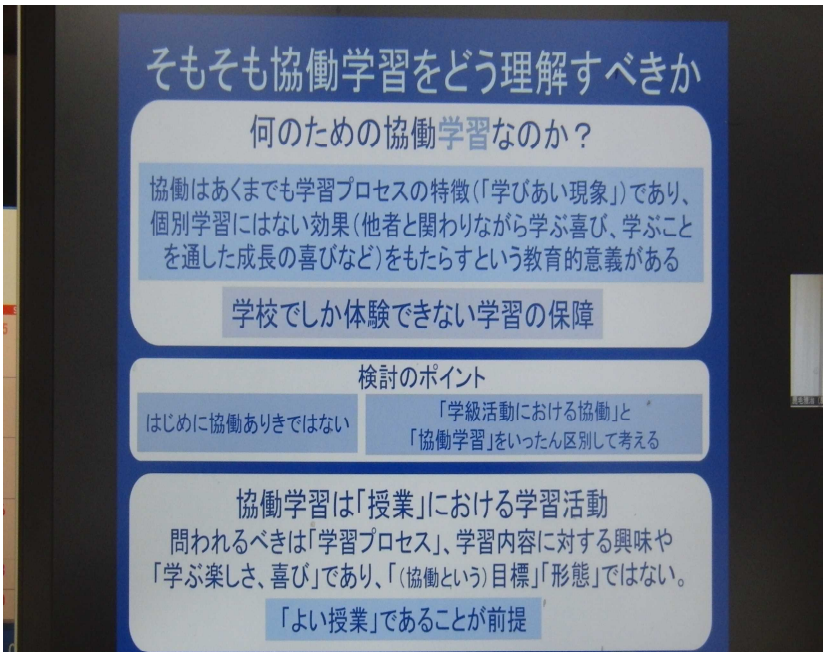
び」として、本校の「国語科の授業」や「太鼓の演奏」を公開し、研究協議会を開催します。

生徒と共に努力してきた本校の研究は高く評価され、日本教育心理学会の全国大会での発表依頼を受け、7月にビデオ収録をして、8月から9月まで1ヶ月オンラインで全国の教職員や大学教授に参観して頂きました。指定討論者は、慶応大学の鹿毛教授と、早稲田大学の河村教授です。2人の教授の評価をご紹介します。以下は鹿毛教授のコメントのスライドです。

※文部科学省から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」で「資質・能力を育成する」ことが求められています。

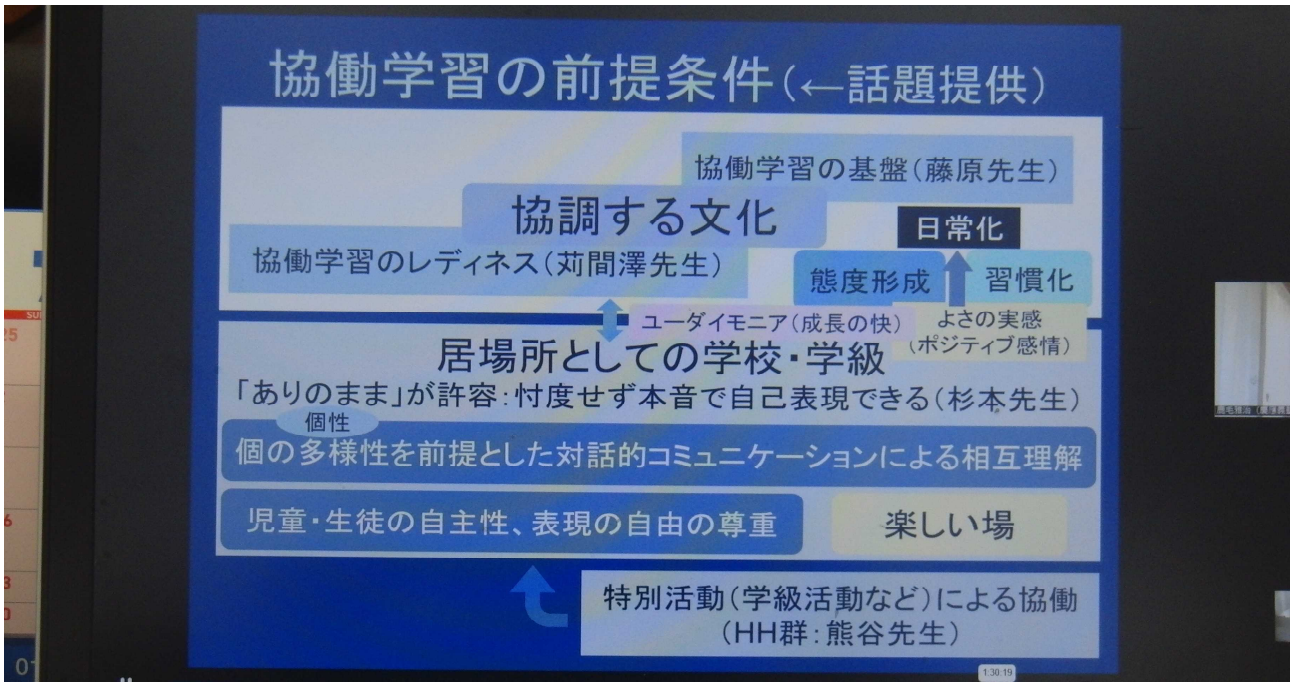
しかし、現実には難しいのが実態です。そこで、小・中・校の代表がどのように困難を乗り越えて実践し、成果に結びつけているかを発表し、全国の学校教育に生かそうとする企画です。

中学校の発表の代表に道志中学校が選ばれ、発表しました。



小学校代表　　高校代表　　高校代表

※藤原先生（横浜国立大学教授）・苅間澤先生（会津大学教授）・熊谷先生（日本大学教授）



中央の部分が「道志中学校の実践」への評価であり、個人の尊重・協働性の実践を高く評価

「居場所としての学校・学級」　「ありのまま」が許容：忖度せず本音で自己表現できる

個性　個の多様性を前提とした対話的コミュニケーションによる相互理解

児童・生徒の自主性、表現の自由の尊重　「楽しい場」

ユーダイモニア（成長の快）　（ポジティブ感情）良さの実感　態度形成・習慣化→日常化

早稲田大学　河村教授の理論

学級経営は昔は、4固定（学級役員等）・3遂行（黙って従う）ことで荒れがなければ良かった

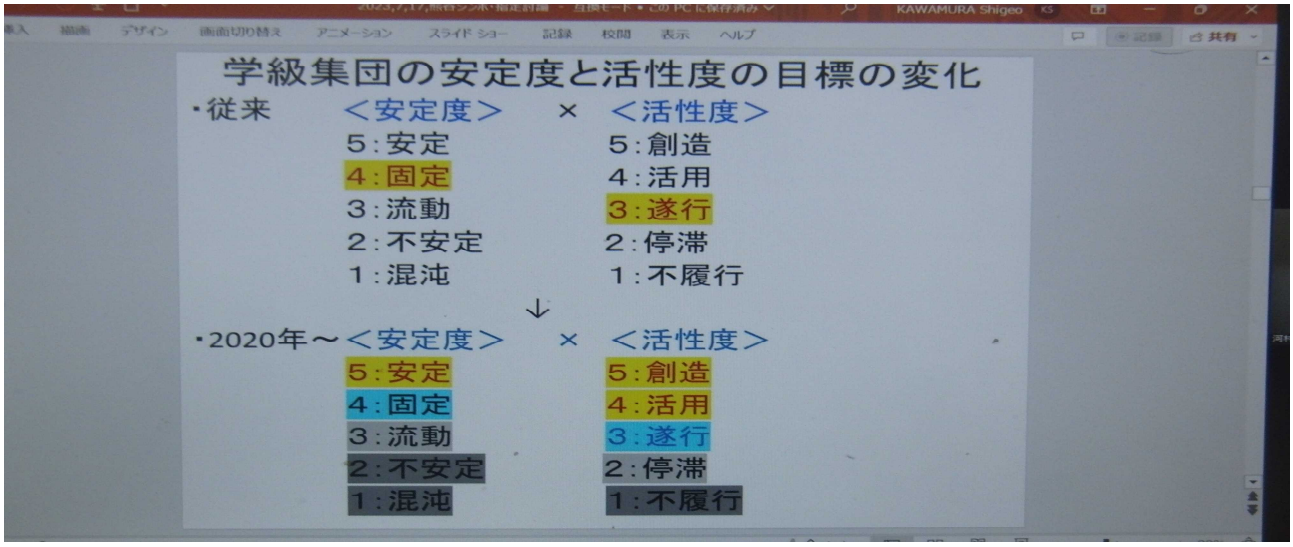
しかし、上記の集団の状態では「一人一人の主体性を発揮出来ない」ので、

現在の教育では、（下図）5安定・活用か創造レベルが求められる。

※昔　固定とは、一部の生徒が中心となって、他の生徒に指示を出して活動し、「遂行」とはその指示に従うレベルの認知。

※現在　安定とは、配慮とかかわり方による真の心理的安全・安定があり、「創造」とは一人一人が主体的に発言し、協働して新たな考えや創造的な発想を生み出せる集団レベルの認知。

河村教授の理論



河村教授の道志中への評価

WEBQUQUで「安定」していて、「創造的」な学級集団を実現するのはとても難しい。
しかし、道志中の3学級は差が無く、しかも安定していて創造的な学級状態であり、組織でそれを実践出来ることを高く評価して頂いた。

※WEBQUは標準化検査で客観的な指標として論文等に使用できる検査

荒れている学級で活動するといじめが起こる。良い集団では協働して、感動を創れる。

一人一人が自分の思いを語り、しっかり聞ける　学級だけでなく、異学年・全校で協働できる

本校の教育のポイント　「自己承認・他者承認の高さ・嫌なことの徹底排除・孤立させない」